

トビウオ通信 (令和4第10号)

<https://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-22-1720)

《令和4年度下半期浮魚中長期漁況予報》

令和4年10月末に長崎市で開催された東シナ海～日本海における主要浮魚類の長期漁況予報会議の内容を参考に、山陰沖のまき網漁業が対象とする主要浮魚類の令和4年度下半期(11月～3月)の漁況を予測します。

山陰沖における漁況(来遊)予報〔令和4年度下半期(11月～3月)〕

マアジ:前年並みか上回る

マサバ:前年並みか上回る

マイワシ:前年並みか下回る

カタクチイワシ:前年並みか下回る

ウルメイワシ:前年並みか下回る

※「前年」は令和3年度下半期、「平年」は過去5年(平成29年～令和3年)の平均値を示します。

マアジは前年並みか上回る

東シナ海～日本海の漁況と今後 東シナ海～日本海南西海域における大中型まき網によるマアジの年間漁獲量は、平成28年以降2.0万トン～3.2万トン程度で推移しています。令和3年の漁獲量は2.3万トンで、前年・平年並みでした。令和4年1月～9月の漁獲量は2.5万トンで前年同期の1.2倍でした(図1)。

直近の漁況や調査船調査の結果などから、東シナ海における沖合域、沿岸域の今後(11月～3月)の漁況は前年並み、日本海における漁況は前年並みと予測されています。

山陰沖の漁況と今後 島根県の中型まき網によるマアジの年間漁獲量は、平成17年から平成30年にかけて2.0万トン～3.8万トン程度で推移していましたが、令和元年から減少傾向となっています(図1)。令和4年1月～10月の漁獲量は7.9千トンで、前年同期並みで平年同期の5割でした。月別の漁獲量は、8月までは5月を除いて低調に推移していましたが、8月以降は増加し、10月の漁獲量は1.4千トンで平年を上回りました(図2)。

今後(11月～3月)の漁況は、漁獲の主体となる0歳(令和4年生まれ)・1歳(令和3年生まれ)の来遊量によって決まるとされています。毎年、島根県が他の研究機関と共同で行っているマアジ新規加入量調査^{*}(マアジ0歳魚の山陰沖への来遊量の調査)の結果では、来遊量の多寡を示す加入量指数は前年を上回り、0歳魚は前年並みか前年を上回ると予測されています。1歳魚の資源量は前年と同等の資源量と考えられています。これらの状況と、10月が前年並みで平年を上回る良好な漁況を示していることから、今後(11月～3月)の漁況は、前年並みか上回ると予測します。

※詳細については「トビウオ通信令和4年第7号」をご覧ください。

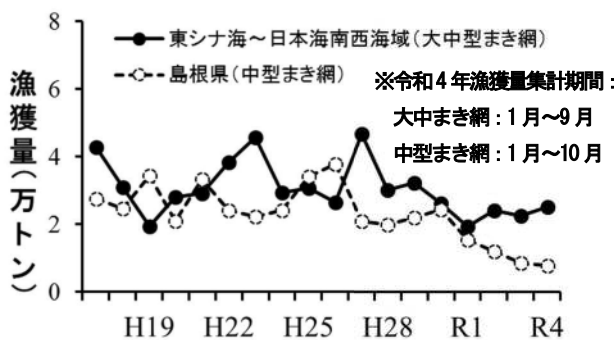


図1. 東シナ海～日本海南西海域(大中型まき網) および島根県(中型まき網)のマサジの漁獲動向

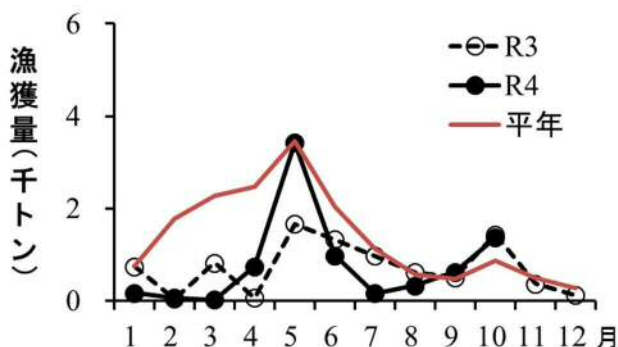


図2. 島根県の中型まき網によるマサジの月別漁獲動向

マサバは前年並みか上回る

東シナ海～日本海南西海域の漁況と今後 東シナ海～日本海南西海域における大中型まき網によるマサバの年間漁獲量は、平成23年以降は1.5万トン～4.9万トンで推移しています。令和3年の漁獲量は3.0万トンで、前年の2倍で平年並みでした。令和4年1月～9月の漁獲量は1.8万トンで前年同期の8割でした(図3)。東シナ海における今後(11月～3月)の漁況は、沖合域は前年並み、沿岸域は前年を上回ると予測されています。日本海は、前年を上回ると予測されています。

山陰沖の漁況と今後 島根県の中型まき網によるマサバの年間漁獲量は、平成17年以降、豊漁だった平成28年から平成30年を除いて7.0千トン～1.8万トンで推移しています。令和4年1月～10月の漁獲量は1.3万トンで、前年同期の1.8倍で平年同期並みでした(図3)。

今後(11月～3月)の漁況は、漁獲の主体となる0歳(令和4年生まれ)・1歳(令和3年生まれ)の来遊量によって決まるとされています。例年、秋季から翌年の春季までが主漁期となり、0歳魚主体の漁獲で1歳魚以上が混じります。1歳魚の資源量は前年を上回り、0歳魚は前年並みと予測されています。年齢別資源量は比較的良好であり、8月～10月の漁況も前年並みであることを考慮して(図4)、今後(11月～3月)の漁況は、前年並みか上回ると予測します。

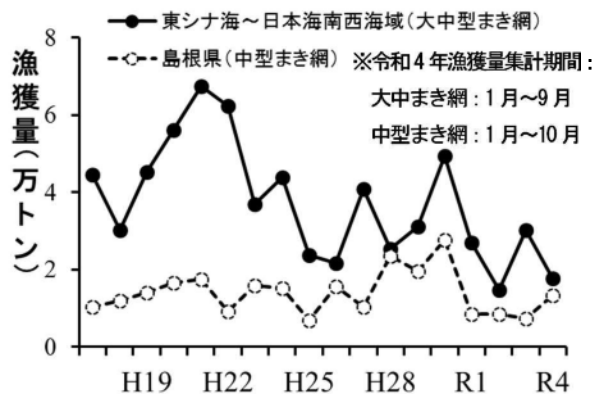


図3. 東シナ海～日本海南西海域(大中型まき網) および島根県(中型まき網)のマサバの漁獲動向

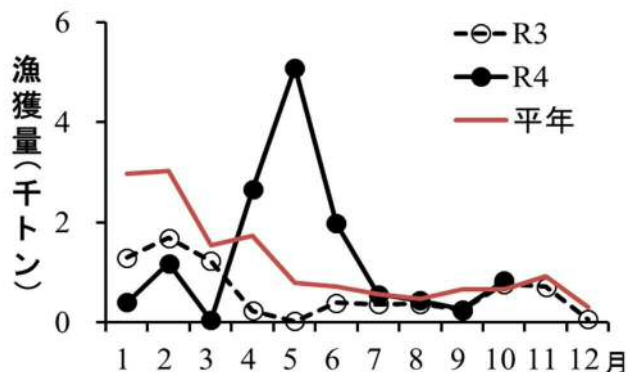


図4. 島根県の中型まき網によるマサバの月別漁獲動向

マイワシは前年並みか下回る

山口県～鹿児島県沿岸域における令和4年4月～8月のマイワシの漁獲量は、多くの地区で前年・平年を下回りました。しかし、長崎県北松地区で4.7千トンの突出した漁獲があり、結果として全体の漁獲量は4.8千トンで前年の6.6倍、平年の4.6倍となりました。

島根県の中型まき網によるマイワシの年間漁獲量は、平成22年まで極めて不調でしたが、平成23年以降急増し、不漁だった平成26年及び令和元年を除いて1.6万トン～4.1万トンで推移しています。令和4年1月～10月までの漁獲量は2.9万トンで、前年同期並みで平年同期の1.4倍でした（図5）。

今後（11月～3月）の漁況は、0歳魚（令和4年生まれ）・1歳魚以上（令和3年以前生まれ）の来遊量で決まるとされています。1歳魚、0歳魚の資源量は、ともに前年並みと予測されています。また、島根県では6月以降は不漁であり、現在も増加が見られないことから（図6）、今後（11月～3月）の漁況は、前年並みか下回ると予測します。

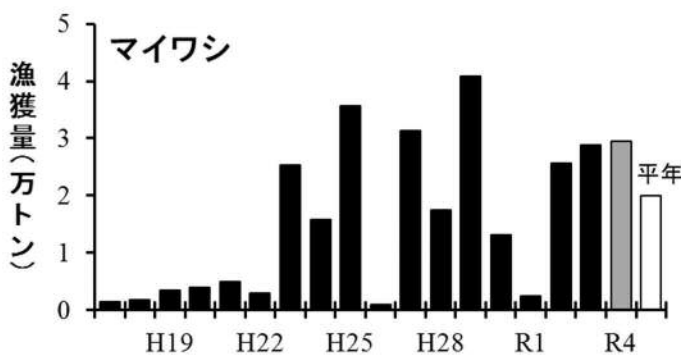


図5. 島根県の中型まき網によるマイワシの漁獲動向
※令和4年漁獲量集計期間：1月～10月

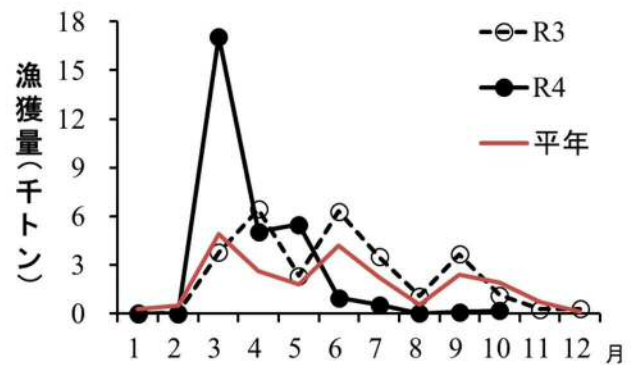


図6. 島根県の中型まき網によるマイワシの月別漁獲動向

カタクチイワシは前年並みか下回る

山口県～鹿児島県沿岸域における令和4年4月～8月のカタクチイワシの漁獲量は5.8千トンで前年並みで平年の6割でした。

島根県の中型まき網によるカタクチイワシの年間漁獲量は、平成22年まで増加傾向にあり、平成22年に1.5万トンの漁獲がありました。その後は減少し、平成28年以降は、極めて不漁であった平成30年を除いて2.7千トン～4.6千トンで推移しています。令和4年1月～10月までの漁獲量は364トンで前年同期、平年同期の1割程度であり、不漁の年となっています（図7）。

今後の漁況（11月～3月）は、令和4年秋生まれ（秋季発生群）・令和4年春生まれ（春季発生群）の来遊量で決まるとされています。春季発生群の資源量は不漁であった前年を上回ると予測されており、秋季発生群を前年並みと仮定すると、資源量は前年を上回るとされています。しかし、島根県では不漁が続いていることを考慮して（図8）、今後（11月～3月）の漁況は前年並みか下回ると予測します。

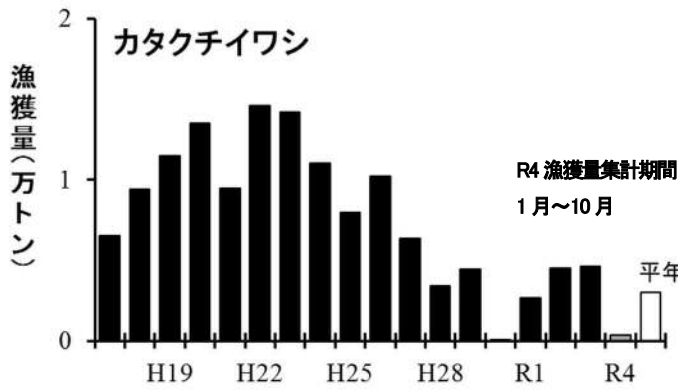


図7. 島根県の中型まき網によるカタクチイワシの漁獲動向
※令和4年漁獲量集計期間：1月～10月

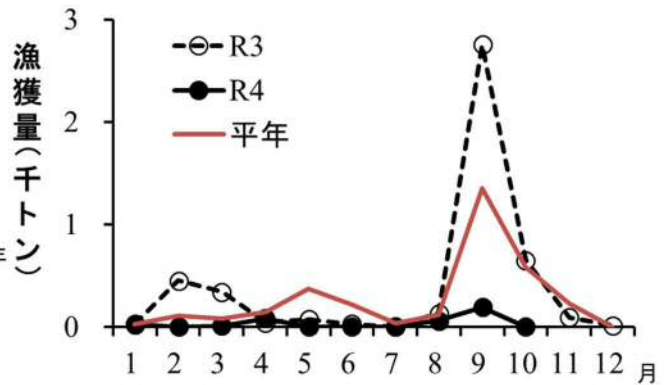


図8. 島根県の中型まき網によるカタクチイワシ月別漁獲動向

ウルメイワシは前年並みか下回る

山口県～鹿児島県沿岸域における令和4年4月～8月のウルメイワシの漁獲量は3.1千トンで、前年同期の6割、平年同期の7割でした。

島根県の中型まき網によるウルメイワシの年間漁獲量は、平成17年以降、豊漁であった平成23年、平成25年、令和元年、令和3年を除いて1.8千トン～9.0千トンで推移しています。令和4年1月～10月までの漁獲量は1.3万トンで前年同期の1.7倍、平年同期の1.3倍でした(図9)。

今後の漁況(11～3月)は、0歳魚(令和4年生まれ)・1歳魚(令和3年生まれ)の来遊量で決まるとされています。0歳魚および1歳魚の資源量は共に前年を下回ると予測されており、島根県では9月～10月は不漁となっていることから(図10)、今後(11～3月)の漁況は不漁であった前年並みか下回ると予測します。

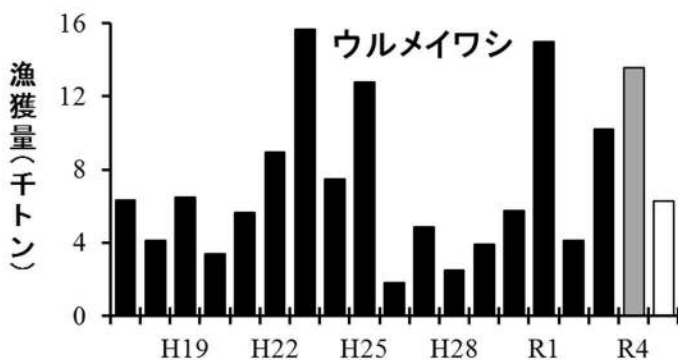


図9. 県の中型まき網によるウルメイワシの漁獲動向
※令和4年漁獲量集計期間：1月～10月

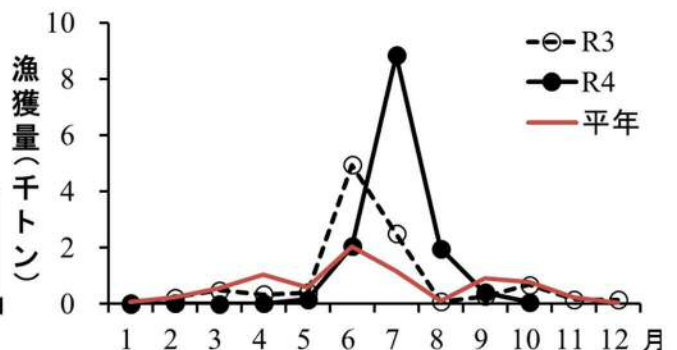


図10. 島根県の中型まき網によるウルメイワシ月別漁獲動向